

## 原発からの撤退と自然エネルギーへの転換を求める意見書

福島第一原子力発電所の事故は、原子力発電の危険性を国民の前に事実をもって明らかにしました。

現在の原子力発電の技術は本質的に未完成で、きわめて危険なものです。原子力発電はばく大な放射性物質（死の灰）を内部にかかえています。それをどんな事態が起きても閉じ込めておくことや無害化するための完全な科学技術は存在しません。そして、ひとたび大量の放射性物質が放出されれば、被害は深刻かつ広範囲で、将来にわたって多大な影響を及ぼします。

そうした原子力発電所が、世界有数の地震・津波国であるわが国に、54基も集中立地していることは明らかに異常であり危険きわまりないことです。

歴代政府が、「安全神話」に固執し、専門家の警告や住民の声を無視して安全対策をとらなかったことが、どんなに深刻な結果をもたらすかも明瞭となりました。

よって、本町議会は政府に対し、下記のとおり要求します。

- ①日本政府が原発からの撤退を決断し、原発をゼロにする期限を決めたプログラムをつくること。
- ②今後のエネルギー政策を、再生可能な自然エネルギーに転換するよう進めていくこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

平成23年9月16日

奈良県生駒郡平群町議会

(提出先)

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

国家戦略担当大臣

経済産業大臣

原発事故の収束及び再発防止担当大臣